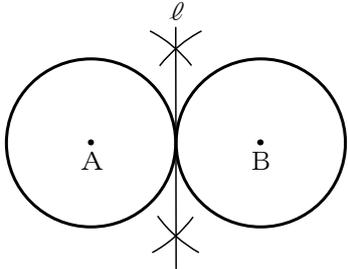


問題番号 配点	正 答 例	採点のポイント
<p>① 〔問 9〕 配点 6 点</p>		<p>○線分 AB の垂直二等分線の作図の方法を用いて、半径の長さが等しい円 A と円 B の接線である直線 <math>l</math> が正確に示されている。</p>
<p>② 〔問 2〕 配点 7 点</p>	<p>左上の自然数を <math>e</math> とすると、  <math>f = e + 3</math>  <math>g = e + 3n</math>  <math>h = e + 3n + 3</math>                  よって、  <math>Q = fg - eh</math>  <math>= (e + 3)(e + 3n) - e(e + 3n + 3)</math>  <math>= e^2 + 3en + 3e + 9n - e^2 - 3en - 3e</math>  <math>= 9n</math>                  したがって、  <math>Q = 9n</math></p>	<p>○ <math>f</math> が <math>e</math> を用いた式で、<math>g, h</math> が、それぞれ <math>e, n</math> を用いた式で適切に示されている。                  ○ <math>Q = 9n</math> が成り立つことが的確に示されている。</p>
<p>④ 〔問 2〕 ① 配点 7 点</p>	<p>△ABD と △APD において、                  共通な辺だから、  <math>AD = AD</math> …………… (1)                  仮定より、  <math>\angle BAD = \angle PAD</math> ……… (2)  <math>AD \parallel PQ</math> より、平行線の同位角は等しいから、  <math>\angle PQD = \angle ADB</math>                  平行線の錯角は等しいから、  <math>\angle QPD = \angle ADP</math>  <math>DP = DQ</math> より、二等辺三角形の底角は等しいから、  <math>\angle PQD = \angle QPD</math>                  よって、  <math>\angle ADB = \angle ADP</math> ……… (3)                  (1), (2), (3) より、1 組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいから、  <math>\triangle ABD \equiv \triangle APD</math></p>	<p>○正しいと認められる事柄について、根拠を明確に記述し、仮定から結論を導く推論の過程が的確に示されている。</p>

各学校において、採点のポイントを踏まえて『部分点の基準』を作成し、『部分点の基準ごとの点数』を定めること。

なお、受検者の実態等に応じて、次の例のように詳細な基準を定めることができる。

- ・ 「○○について××が書かれている。」のように、具体的な内容を加えること。
- ・ 「○○と△△が書かれている。(3点)」「○○が書かれている。(2点)」「△△が書かれている。(1点)」のように、段階を設け、段階ごとの点数を設定すること。
- ・ 「誤字が一つ以上ある。(1点減点)」のように、部分点の基準を加えること。